

「いつも主に向かう！！」

～習慣から自由に～

詩編63編

新しい建物を建てる時古い建物を壊さないと新しい建物を建てられないように、私たちは何かしようとする時、今までのことを変えることができないと、新しいことができません。一年の終わりにそんなことを思いながら、御言葉をみていきましょう。

■ 詩編63編ダビデとアブシャロム

ダビデにはたくさんの妻、側室そしてその間にできた子供たちがいました。そのなかに、アムロンとアブシャロムという異母兄弟がいました。このアムロンはアブシャロムの妹タマルを、すなわち、異母兄弟の妹を好きになってしまいました。赦されない関係でしたが、アムロンは力づくでタマルを自分のものにします。しかし、その途端にアムロンはタマルを捨ててしまいました。傷ついたタマル。それを知った兄アブシャロムは、怒り、アムロンを殺してしまいました。自分の息子たちの間で、殺し合いがあったことを知ったダビデは非常に悲しみ、怒ります。そして、アブシャロムは家を追い出されるように出ていき、3年間荒野に逃げます。仲裁があつていったん家に帰りますが、ダビデはアブシャロムを受け入れることができませんでした。その後2年間、絶縁されていたアブシャロムは反省することなく、遂にはダビデの王位を乗っ取るとうします。最初は愛する妹をひどい目にあわされたという正当な理由がありました。傷ついた心は怒りになり、復讐心に燃え、この復讐心が心を蝕んでいき、自分の父親を殺そうとするにまでなります。そこで、突然命を狙われることになったダビデは慌てて王宮から荒野へ逃げます。置いて出た妻、側室たちはアブシャロムに奪われます。ダビデにとって最悪な出来事でした。我が愛する息子が愛する息子を殺し、その我が息子に逆恨みされ命を狙われるようになり、逃れて荒野にいた時に詠ったのが詩編63章詩です。ダビデの人生で荒野に逃げるというのは初めてのことでありませんでした。サウル王から命を狙われて何十年も逃げました。しかし、その時以上の悲しい出来事でした。また、ダビデが信頼していた側近中の側近も、裏切りアブシャロムについて行ってしまいました。

■ 神の前で正しい心

皆さんはどんな一年でしたか。いいことも、悲しいことも、色々なことがあったと思います。特に悲しいことが合った時、あなたは神様にどんな態度をとっていましたか。ダビデはどんなに悪いことがあつても神様の前で正しい心を持ち続けました。みなさんはどうだったでしょうか。つらいことがあつた時どのように過ごしたでしょうか。‘なんで私がこんな目に遭わなければならないの’と思つて悪い決断をしないでなかつたでしょうか。この一年間の自分の傾向をよく覚えてなければいけません。そうしないとまた繰り返してしまいます。自分が、謝るべきことをしてしまったとき、素直に謝れていますか。アブシャロムは3年間荒野にいた時、反省したわけではありませんでした。自分は傷ついた妹を思って、自分が正義だったのです。クリスチャンは特に覚えとかなければなりません。相手が不正をしているのだから、私は正義だから、怒っていいんだ。と思つてしまいがちです。しかし、正義は罪のない人しか口にするにはできません。イエス様は姦淫の場で捕らえられた女性に対し、罪を犯したことの無いだけが石を投げなさい。といいました。すると、年老いた者からその場から去っていきました。私たちは、自分のことは棚にあげ、人に指さし、相手の悪いところを指摘しますが、神様の前では、スピード違反も嘘をつくことも、人を殺すことも同じ罪です。どれも自己中心の罪です。ダビデ、アブシャロムの心には自己中心がありました。ダビデはあまりにも痛みと悲しみのゆえに、アブシャロムともっと話し合うべきだったのにできませんでした。だから我が子は間違つた方向にいきました。アブシャロムも父に対して、どう向き合ふべきだったのでしょうか。誰でも理不尽に思われる状況はあります。そんな時ダビデはまず、神様の前に出て、問題を取つてくださいと祈るのでなく、自分の騒ぐ心を治めるように祈りました。そして、解決は神様にゆだねました。腹が立つことが起こると、自分の方法で解決しようとしてませんか。しかし、それでは解決どころか反発がおきます。

■ 神様の解決方法は

私たちは神様の方法を探らなければなりません。詩編119章には主が良くしてくださつたことを何一つ忘れるな。と自分にいい、自分の心を保つことをいっています。マンデラ大統領もいいました。“人は魂の管理者であるべきだ”と。皆さんは自分を従えられているでしょうか。ダビデは祈りの中で神様から任されたイスラエルの王としてこんな問題で右往左往していいのかと自分に言い、そして、神様は私を必ず導き、解決される。と誓っています。来年こそは、問題があつて、心が騒ぐときに、相手に人間的に正義を振りかざして制裁を加えても、相手が変わらなければ意味がありません。あなたの目の前の人、あなたの思いどうりじゃないかもしれません。では相手に、批判したり、ダメだと言ってその人は良くなるのでしょうか。その問題にどう向き合ふか。あなたの方法でやつてはいけません。相手の生涯が変つてしまいます。神様のやり方は自分で悪かつたと気付かせて、戻らせる方法です。あなたは自分の悪かつたところに気付いていますか。

■ ヘブル人への手紙

この書はもともとユダヤ人が、イエス様の死後5～60年経つた頃にヘブル人へむけて書いた手紙です。ユダヤ人は一度、神様に従うと決

心して戻りますが、再びユダヤの法則にのつとて神殿でいけにえを捧げるようになっていきました。イエス様が十字架に架かって死んだ時、神殿の垂れ幕が真つ二つに裂けました。ユダヤ人たちはそれをまた縫い合わせ、イエス様を信じたユダヤ人たちもだんだん神殿にいけにえを捧げるようになっていきました。もとの習慣に戻つていったのです。クリスチャンも神様に従つていく決心をしても、やはり、習慣があり、今まで自然にしてきたことをやってしまうのです。しかし、その行為がダメにしてしまうものだったらどうでしょう。ダビデもアブシャロムも怒つてしまう弱さがありました。ですから、いつも主にむかうことを覚えなければなりません。ダビデは頑張つてやりました。しかし、アブシャロムはやりませんでした。主に向かうということは、礼拝に集い、また、いつでも神様の前に出てくることです。そして、自分を見つめることです。どんなときに感情的になりませんか。どんなときに嘘をついてしまいますか。弱さが出てくるときダビデのように、24時間賛美隊をつくつて、調子が悪くなつた時、腹が立つとき、嬉しいときいつでも賛美していたように、いつも主にむかひましょう。*私はあなたを切に求めます*これはヘブル語で日が昇る前に神様の前に出て祈る。ということです。それくらい、闇の状況でも神様のまえにでる必要があるのです。

■ ①過去にもどるべからず

私たちはすぐにもとに戻ります。せつかく神様が自由にして下さつたのに感謝を忘れてしまいます。しかし、来年こそは過去に戻ることをやめましょう。ベトナム戦争の被害者キムさん。彼女は焼夷弾で全身に火傷を負いました。19歳で聖書に出会います。人生がかわりました。医者になり、結婚し、子供に恵まれました。憎しみを捨てることができたり。しかし、あいつらさえいなければいいいと過去の憎しみが過ぎる過去に引きずり戻そうとすることがあります。そんな時、詩編63編を読み、自分は神様の前に立つんだ、もう二度とあの悲惨な戦争を繰り返さないために立ちあがる。と決心をしたのです。彼女は特別な人でしょうか。大切な家族、自分の皮膚さえも失つたのです。それでも人生を変える決断ができたのです。だからあなたも必ずできます。

■ ②人を呪うべからず

ウェンディズの社長。トマスさん
産まれて3か月の時に養子に出され、育ての母との死別、父親の4回の離婚。15回の引っ越し。そこから、17歳で家を出て、一人で仕事を始めます。37歳で仕事が成功していきます。そんな悲しい過去があるのに、どうして、正しい道を歩けたのでしょうか。それは、神様の愛を教えてくれたお婆さんとの思い出があつたからだそうです。お婆さんは熱心なクリスチャンでした。お婆さんと過ごした夏休みの思い出が彼を支えました。17歳で父親に捨てられて家を出ます。そこから真剣に仕事をしてお金を貯めてお店を出しました。食ふことのできない子供たち、親たちもここに来れば家のような所をつくりたいと思つて作りました。そして、7000店もお店を出すにまで至りました。お婆さんはあなたは、真実、誠実でありなさい。と言われていたそうです。真実とはなんでしょうか。真実を言葉で表すのは難しいです。真実とはすべての現れです。真実で生きるために信仰を持たなければならぬとトマスさんはいいました。私たちも、真実と誠実のなかで、信じる信仰をもって歩んでいきましょう。

■ ③御手の中で感謝をわすれるべからず

教会は真実を行う練習をし、感謝をする練習をします。そして、呪わない仕返しをしない。ことを学びます。ダメなところを探すところが教会ではありません。ダメなところに気付くのが教会です。自分が気付くのであつて、人が、隣の人のダメなところを気付くではありません。でも、ここへ来ることで、問題に気付く、あなたは本当の姿を隣の人から教わります。あなたの良いところを隣の人から聞き、あなたは、自身の悪いところを聞き、自分で感じ絶望します。そのことで教会は神の姿に変えられていきます。来年を迎えることと感謝と喜びに満ちた一年が始まります。そのような一年になることをきめなければなりません。決めたら成し遂げてくださるのは神様です。